

令和5年度 文京区障害者地域自立支援協議会
第1回相談・地域生活支援専門部会 要点記録

日時 令和5年7月24日（月）午後1時30分から午後3時29分まで

場所 文京シビックセンター3階 障害者会館会議室A・B

<会議次第>

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 令和5年度自立支援協議会について
 - (2) 暮らしをサポートする仕組みについて
 - (3) 支援を円滑に引き継いでいく方法について
 - (4) 令和5年度の優先的取組みについて
- 3 その他

<障害者地域自立支援協議会相談・地域生活支援専門部会委員（名簿順）>

出席者

樋口 勝 部会長、浦田 愛 副部会長、志村 健一 委員、高田 俊太郎 委員、
関根 義雄 委員、本加 美智代 委員、阿部 智子 委員、井口 勝男 委員、
安達 勇二 委員、夏堀 龍暢 委員、松尾 裕子 委員、中川 穰 委員、
岩井 佳子 委員、吉野 文江 委員、福田 洋司 委員、荒井 早紀 委員、
佐藤 祐司 委員、加藤 たか子 委員

欠席者

佐古 陽子 委員

傍聴者

13名

1 開会

委員挨拶

部会長 樋口委員に決定

2 議題

(1) 障害者地域自立支援協議会相談・地域生活支援専門部会について

資料第1-1号から資料第5-2号について事務局及び樋口部会長から説明

(2) 暮らしをサポートする仕組みについて

① 志村委員より話題提供

- ・ 国連の障害者の権利に関する委員会から、日本の包括的報告に対する総括所見があった。知的障害者に特定の生活様式を強いるのではなく、地域移行の促進をすること、精神病院の入院制度の見直しが求められている。この大元になっているのはインクルーシブ教育である。障害のある人々が地域の中で当たり前と共に学ぶ環境が求められている。
- ・ 社会福祉法の改正で、伴走型支援と他機関協働を含めた包括的、重層的支援体制の構築の流れが生まれている。断らない相談支援体制、障害のある方々を含めた社会的ニーズのある方が参加できる地域づくり、パターンリスティックではない伴走型支援体制、既存の会議体等を活用した他機関協働がキーワード。文京区は、基幹相談支援センターが相談を取りまとめているが、より身近な地域での相談先の確保では、地域生活支援拠点を中心に動いていく。すべてを担うのではなく、専門的人材を確保、養成し、分散して担っていく必要がある。
- ・ 国連勧告の中で、パーソナルアシスタント制度というものが提示されており、これを活用した伴走型支援により、地域移行が促進される。

② グループワークから出た意見

- ・ 障害者の情報は入りにくい。パーソナルアシスタントは、資格がなくてもできる身近な地域の居場所の役割だが、この役割がないと生活が回らないようだ、成り手の確保が難しい。また、都外施設へ入所する障害者が多く、地域移行が課題の中で、生活訓練の場が必要。場所の提供者は存在するのに運営事業者が不足していることから、パーソナルアシスタント制度を組み合わせるとよい。
- ・ 住宅補助や人的支援により、環境が合えば、地域で自立した生活が続けられる障害者もいる。また、精神障害者において、緊急時に医療へ繋ぐ、クライシスレゾリ

ューションが公的にあればよい。

- ・ 不動産業界が精神障害者の受け入れに消極的な理由は、情報不足や偏見に起因する。制度の拡充だけでなく障害を知ってもらうアプローチが必要。オーナーに安心して貸してもらうには、支援者側の体制づくりも必要。
- ・ 公的なサービスにはある程度基準が必要だが、制度がない人の困りごとを解決する仕組みづくり、周知が必要。パーソナルアシスタントについては、訪問看護など、他職種の人がメンバーになれると強みがある。グループホームについては、障害の種類を超えた形でそれぞれの強みを生かせる場所ができたらい。
- ・ 啓発のターゲットを明確にするやり方もある。民生委員や地域の方たちは空き家を知っているが、不動産屋は障害を知らず、情報がうまく回っていない。
- ・ 日本でのパーソナルアシスタント制度の議論は、重度訪問介護の発展的継承という形でスタートしているが、法制度にない。海外ではハードルが低く、困ったときに一緒に何かをやってくれる、同行者、訪問者、気軽な相談相手、お茶のみ友達等が支援をし、自宅での生活が継続できる仕組みを想定している。日本でなぜ進まないのかは、お金を障害のある方々に預け、その範囲でやりくりするダイレクト・ペイメントが一緒だからである。お金は行政が後づけし、今のサービスの仕組みと同じ、いわゆる重度訪問介護のハードルを低くするやり方で、無資格でも講習会程度で担える形でやっていくことは可能だろう。
- ・ パーソナルアシスタントは拠点でやりつつある。専門職がやらなくてもいい人は多くいるので、支援員や理解ある地域の方が増えるとよい。住まいのワーキンググループでは、オーナーに周知活動をする仕組みができるとよい。予防対策課の実務者連絡会で不動産屋を呼び勉強会をするので、部会でも共有したい。空きがあると拠点に連絡してくれる不動産屋もあり、理解が進むとウィンウィンな関係ができる。

(3) 支援を円滑に引き継いでいく方法について

資料第5-1号、第5-2号について事務局から説明

① アセスメントシートについて意見交換

- ・ 相談支援事業所によって様式は全然違う。様式だけではなくて、書き方に工夫をしていただくとよい。
- ・ 読む側のスキルアップが課題。基本情報についてはそれぞれで、最近の情報、ご

本人ご家族の様子が分かれば問題ない。一番伝えたいことは何かを記載してもらえ
ると、支給決定の判断材料になる。

- ・ 現実的には、計画を出すだけで精いっぱい。この書式は、事業所が変わった際にも書式がそのまま使えるようにするために、国様式に内容を盛り込み作成した。支給量の根拠資料でもあるので、本人の意向が乗る形で作らなくてはいけない。
- ・ 本人の気持ちが計画に表現されるようにしているが、会ったことのない方にも分かるよう書くのも大事。障害から介護保険へ移行する方を繋ぐときも、ただ情報を渡すだけでなく、説明も口頭で行い、本人にも説明しつつ繋いでいる。
- ・ 計画を出す際、本人と話をした後サインをもらい提出するのと、受給者証の管理の際、家族に連絡した後コピーを取るやり取りがスムーズにできていないところがあるので、工夫したい。
- ・ 包括だと基本情報のシートは共通。ケアマネはケアプランソフトをばらばらに使用しているため、シートが統一されていない。丁寧に引継ぎができれば全てをシートに頼らなくてもよい。

② ツールについて

部会長より提案

- ・ 具体的なツールの話を指定特定相談支援事業所連絡会で共有し、部会に報告する。ある程度ツールが形になったら、どう工夫して使っていくか話したい。他区では、ご本人に計画を見てもらい、口頭で許可をもらう事業所もあった。ご本人に許可をもらうことで、話してもよい情報の範囲も共有できる。そんな仕組みの話も今後話したい。

③ 障害サービスと介護保険について

- ・ 障害福祉課で、障害福祉サービスから介護保険に移行する際のマニュアルを作っている。介護認定を受けるまでに時間がかかるので、認定後、サービスが始まるまで障害福祉サービスを延長し、切れ目なくすることが書いてある。介護保険法上にならぬサービスを障害サービスで上乗せすることも若干あるが、基本的にはサービスの間が開かないようどうするかが書いてあるものを担当間で使っている。
- ・ 介護保険に該当するかどうかでも違う。認定手続は取ってもらうが、結果非該当になる方もいて、障害のサービスを継続される方も最近多くなってきている。
- ・ 65歳になって介護保険に移行になると、今までの障害者総合支援法でのサービスか

ら変わってしまう。できるだけ障害者側に立った支援の在り方が必要。

- ・ 最初、包括で予防給付が始まった頃は、障害の方を予防給付の中でどう見ればいいのか苦慮したが、障害の担当の方たちの配慮で、実際に障害の方が介護保険でどうにもならなかった経験はない。ただ、どう配慮されているのか、より介護の重い方がどんな対応をされているのか、誰がどう支援しているかが見えていない。
- ・ 介護保険が優先であれば、優先的に利用しなければならないが、今まで費用が発生していなかった方でも、介護保険の負担額が発生する。そこで利用者は苦慮している。サービス内容に関しては徐々に理解を得られているので、障害の相談支援専門員が介護保険をご理解いただいて、説明されているのではないか。
- ・ 介護保険と障害福祉サービスが交わる勉強会や研修があるとよい。そこで包括やケアマネさんと顔の見える関係をつくるのが重層的支援の一つのスタート。
- ・ 先日、厚労省から、障害サービスと介護保険制度の適用にかかる留意点という事務連絡で、障害福祉サービスの利用を認める要件を、画一的な基準のみに基づき判断することは適切でなく、個々の障害者の障害特性を考慮し、必要な支援が受けられるかという観点で検討した上で支給決定を行うことという通知が来た。そうすると画一的なマニュアルは、なかなか作りづらい。

(4) 令和5年度の優先的取組みについて

① 意見交換

- ・ 指定特定相談支援事業所連絡会は計画相談の支援者の集まりで、相談というよりは計画の意味合いが強い。
- ・ ツール作成は難しいが、勉強会を開催し、ポイントや課題を整理して、分かりやすく外に伝えるところから始めるのはどうか。
- ・ 民生委員の方も委員に入って、専門職の話がなかなかイメージしづらいので、ポイントを整理して、民生委員の方も分かる形で作ることを目指したい。

② 総括

- ・ ポイントという話があったが、うまくタスキを渡せるような、また、何を渡していけば、その対象となる方々が主人公として文京区の中で生活を継続できるのか、人生の主人公として日々存在し続けることができるのかを考えられるとよい。イメージも共有が難しいところもあるので、そこから共有できればと思う。

以上